

1 この科目の構成について

教科	芸術科	科目	絵画		単位	1 単位
対象コース	美術	コース	対象クラス	1 年	7.8 組	
使用教科書	高校生の美術1（日本文教出版）					
使用副教材						

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか	
1	絵画では絵画表現全般を実習する。油彩、透明水彩による着彩等、各画材の組成と特性を知り、基本的な使用法を学ぶ。
2	デッサンで実習した表現を色彩に置き換えた制作を習得する。
3	2年次以降に制作する大型の作品、また自由制作につなげる準備段階として、多様な絵画表現を目標として学習する。
学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか	
(1) 学校	主に授業時間内で実習し、放課後等、課外時間も有効に使って学習する。 スケッチは美術コースの行事、「校外スケッチ実習」で2日間、野外に出かけて制作する。 その後各自で加筆して仕上げる。
(2) 家庭	特になし

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめごと)	①スケッチ実習 風景のヴァールール、色彩による空気遠近法の理解。構造的観察力、立体感、空間把握。 ②着彩・静物 透明水彩絵の具の特性と扱い方の理解。基本的な表現方法の実践。 ③油彩・自画像 美術Ⅰ自画像木炭デッサンで習得したデッサン技術の応用。油絵の具の特性と扱い方の理解。基本的な表現方法の実践。	①スケッチ実習 風景のヴァールール、色彩による空気遠近法の理解。構造的観察力、立体感、空間把握。 ②着彩・静物 透明水彩絵の具の特性と扱い方の理解。基本的な表現方法の実践。 ③油彩・自画像 美術Ⅰ自画像木炭デッサンで習得したデッサン技術の応用。油絵の具の特性と扱い方の理解。基本的な表現方法の実践。	①スケッチ実習 作品の完成度。制作に対する取り組み方。集中力。 ②着彩・静物 作品の完成度。制作に対する取り組み方。集中力。計画性。 ③油彩・自画像 作品の完成度。制作に対する取り組み方。集中力。計画性。
評価方法	各課題を採点した点数。 特にデッサン力・色彩感覚を評価する。	各課題を採点した点数。 特に表現力、構成力の習得を評価する。	各課題を採点した点数。 特に課題に取り組む姿勢や完成度を評価する。

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	5	■「校外スケッチ実習」   	■「校外スケッチ実習」（約10時間） 校外スケッチ実習で制作。 F6サイズ画用紙 パネルに水張りし、透明水彩絵具で描く 構造物を含む風景のスケッチ実習 2日間で風景画を制作する パースペクティブの理解 透明水彩によるスケッチ技法の習得 道徳教育を実施 人や自然を題材とした絵画作品の制作を通して、自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心を培う。人間の力を越えたものに対する畏敬の念を深め、絵画表現の可能性を追求する態度を養う。主体的に幅広い絵画表現に取り組み、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を醸成する。	●	●	●
2	8 9	■「着彩・静物」  	■「着彩・静物」（24時間） B3サイズ画用紙パネルに水張り 透明水彩絵具で描く。 水彩絵具の基本的な使い方 静物セットをモチーフにした描写表現。	●	●	●
2	11 12	■「油彩・自画像」  	■「油彩・自画像」（27時間） F10キャンバスに油彩 美術Ⅱで実習した自画像木炭デッサンからの展開。 油絵具と即乾剤等油彩制作補助具の基本的な使い方を学ぶ。 自画像/人物の効果的な画面構成を実習する。			

1 この科目の構成について

教科	芸術科	科目	日本画		単位	1 単位
対象コース	美術コース	コース	対象クラス	1 年	7.8組	
使用教科書	高校生の美術1(日本文教出版)					
使用副教材	無し					

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標:この科目を学習して何を身につけてほしいのか

日本画の授業では、膠・胡粉・岩絵具・顔料・墨の特性と用具の使い方など伝統的な専門技法を学習し、また日本画特有の空間表現を学ぶ。

1年次は日本画の基礎として、デッサン力を養い、観察と細密描写を中心とした課題で実習する。

静物描写の課題のなかで絵具、素材に対する表現技術を習得する。主に顔彩を使用し、来年度以降に向けて岩絵具の実習も盛り込みながら、日本画の基礎実習を目標とする。

学習方法:この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1)学校

主に授業時間内で実習し、放課後等課外時間も有効に使って集中した制作を行う。

放課後の実習時間は各学年を曜日で振り分けてアトリエを使用する。

(2)家庭

特になし

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめ)	日本画画材の伝統に基づいた基礎知識の理解。 岩絵具と膠の基本的使用方法の習得。 対象を綿密に観察し、形、質、量感などを捉える力。 明暗や空間を捉える基本的なデッサン力。	画面全体を構成する総合的判断力。 絵画的表現力。 色彩の基本的理論を踏まえた上で、画面上で魅力的に表現する色彩感覚。	課題に取り組む意欲的な態度。 課題に対する感心と興味、探求の度合い。
評価方法	完成した作品によって評価する。 基本的デッサン力と、日本画画材の基本的な知識を学び、技術を習得できたかを見る。	完成した作品によって評価する。 モチーフから得たイメージを、正確な描写力と独自の感性によって、絵画として完成させる表現力を見る。	制作の姿勢が意欲的で、集中して臨んでいたかを見る。授業態度の他、日本画に対して関心を持ち、研究心を持って取り組んだかを見る。

4 この科目の学習計画について

年間学習計画:この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	6 ～ 7	「日本画・静物」 4 質の高い教育を みんなに 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に 具体的な対策を 道徳	「日本画 I・静物」21時間 F6サイズ 雲肌麻紙をパネルに水張りして描く 顔彩使用 地塗りは岩絵具使用 モチーフは野菜や果物など、自然物 の組み合わせ 日本画は専門講師が指導し、画材等のセッティ ングが大掛かりなため、約1ヶ月の集中授業の形 式で学習する。1年次では日本画実習の基本と なる、水彩による写生を中心に実習し、併せて日 本画材の基礎も学ぶ。 ① B3スケッチブックにF6サイズの 枠をとり、モチーフをデッサンする ② 雲肌麻紙を水張り ③ 下絵をパネルにトレースダウン モチーフをデッサンする ④ 墨で線描き 線による表現の実習 濃淡3段階の墨で線に強弱をつける ⑤ 岩絵具で地塗り 白群青・白緑青・黄土・岩桃 コバルトバイオレット・若葉 「白」を使う 岩絵具の粒子について知る 岩絵具を膠で溶く技法を学ぶ ⑥ 顔彩で彩色 綿密な観察 水彩絵具による細密描写 日本画における道徳教育 日本画制作を通して日本文化を愛する心を養 い、伝統を伝える事の大切さを学ぶ。歴史の中 で受け継がれ、形成されてきた技法を体験し、日 本の独特な美意識と精神性から生まれた造形思 想を学ぶ。また岩絵具、膠、麻紙など自然素材を 使って描くことによって、改めて自然環境に目を 向ける気持ちを培う。	●	●	●

1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

2024

教科	芸術科	科目	美術Ⅰ		単位	3	単位
対象コース	美術コース	コース	対象クラス	1 年	6 組		
使用教科書	高校生の美術1（日本文教出版）						
使用副教材							

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

- 1 年生美術 I では、①デッサン、②美術理論 (色彩論と透視図法)、③彫塑という3つの領域で学習する。
- ①本コースの実技指導は、綿密な観察力と描写力を土台としているため、デッサンの実習には最も力を入れて学習する。1 年次では基本的な物の見方、表現方法の習得を目標とする。
- ②美術理論、色彩論は作品の色彩計画の基準となる知識を学習する。
- 3 学期の最後には各種の透視図法を学び、アトリエの室内を描いて実習する。
- ③彫塑の課題は年間 1 回実習する。全方向からのデッサン力を養い、形の構造を理解する上で非常に重要な課題である。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

- ①はデッサンの基礎演習の実習。1 学年前期では基本形体の描写、素描画材の扱い等、基本的な部分を確実に修得し、後期は自画像等発展的なモチーフを描く。
- ②美術理論では、前期は色彩論を学習する。色相環の理解、色の三属性の理解から、色彩論を応用した配色の演習を行う。後期は図法を学習する。三面図の読み取りと作図、多角形の作図を中心に学ぶ。
- ③彫塑では、立体造形の最初の課題として「握った手」をモチーフに、彫塑用粘土を使って制作する。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

- (1) 学校
デッサンと彫塑は主に授業時間内で実習し、放課後等、課外時間も有効に使って学習する。
- (2) 家庭
色彩論は、定期考査で出題されるため、自宅での予習、復習が不可欠である。

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめごと)	①デッサン、モチーフの比例、遠近法の理解。構造的観察力、立体感、空間把握。 ②彫塑 は主に完成作品で評価する。素材の理解度、技能を評価。立体作品のデッサン力で評価する。	①デッサン、画面に対しての構図。質感やイメージの表現力。 ②彫塑 は主に完成作品で評価。創造性、表現力を評価。	①デッサン 作品の完成度。制作に対する取り組み方。集中力。 ②彫塑 完成するまでの課程、取り組みの姿勢を見る。各自の力量に合わせた努力度、熱心さ等を加味し、平常点として評価に加える。
評価方法	考査の点数。 各課題を採点した点数。特に描写力や立体感、空間表現方法などの技術の習得を評価する。	考査の点数。 各課題を採点した点数。各課題を採点した点数。特に表現力、構成力の習得を評価する。	各課題を採点した点数。特に完成度を評価する。また、授業中の取り組み度も評価する。

4 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	4 ～	「静物デッサン 基本形体の描写」  	「立方体、球体、円柱のデッサン」 使用教室第3アトリエ 12時間／A3画用紙／鉛筆 配布されたモチーフを鉛筆デッサンする 描写を理解する上で基本となる、立方体、球体、円柱の描写表現を理解する。 木の立方体、テニスボール、紙コップをモチーフに描く。 鉛筆、練り消しゴムなど用具の使い方 構図・基本形体の把握 明暗の表現・質感の表現 空間の表現	●	●	●
1	5	「色彩論」 色彩の基礎知識の学習  	「色彩論」 6時間 使用教室：第2コンピューター室 色彩の基礎知識を学習。色の基本的な要素を学び、それを使って類似や対照、面積や配置などを配色の演習を行う。学習内容を今後のデザイン、絵画制作に活かす。 5月に実施するデザインの課題「平面構成色彩演習」と連動した課題 ユニバーサルデザインを通し道德教育を実施	●	●	●
1	6	「第2回審査 デッサンコンクール」 	「第2回審査静物デッサン」 2時間／配布モチーフ コンクールサイズ 画用紙／鉛筆 ※全学年で行うデッサンコンクール	●	●	●
2	9 ～ 10	「自画像 木炭デッサン」   	「自画像 木炭デッサン」 鏡に映る自画像を描く 15時間／木炭紙／木炭 明暗で大きく形態をとらえる描き方を学び、1月に実習する自画像油彩につなげる。 道德教育 創造性を養い、多様な価値観を探究し、芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高めることは、美しいものや崇高なものを尊重することにつながるものである。また、より良い社会を創り出す態度を養い、豊かな情操を培うことは、学校の教育活動全体で道德教育を進めていく上で基盤となる。	●	●	●